



熊毛郡医師会 インタビュー

第4回 熊毛郡医師会 沖野 良介 先生

と き 令和5年5月18日(木)

ところ (医) おきの内科糖尿病クリニック

[聞き手: 広報委員 岡山 智亮]



岡山委員 今回は令和4年5月に熊毛郡医師会
長に就任された沖野良介先生にお話を伺いた
いと思います。本日はお忙しい中、お時間
を取っていただき、大変ありがとうございます。

遅くなりましたが、改めてご就任おめで
とうございます。まず、医師会長になら
れた経緯から聞かせていただいてもよろ
しいでしょうか。

沖野会長 ありがとうございます。熊毛郡
医師会では会長職を輪番制で行うのが
昭和45年の総会で決まったというこ
とで、以降2年毎に会員が交代で行っ
ております。私が現時点で1年やって
きましたので残り1年の任期になります。

岡山委員 では、そういった熊毛郡医師
会の歴史など教えていただいてもよろ
しいでしょうか。

沖野会長 はじまりは、明治44年と非
常に歴史のある医師会です。今は上関
町と田布施町と平生町からなるので
すが、昔は結構広がったようです。今
は3町で、人口2万7,000人ぐら
いのエリアになります。

会員数は22名で、A会員が10名、
B会員が9名、C会員が3名です。年
代も調べましたが、30代が1名、4
0代が2名、50代が6名、60代が5
名、70代が6名、80代が2名で構
成されています。

岡山委員 先生が思われる医師会の課
題はありますか。

沖野会長 課題は会員の高齢化と会
員数の減少、それが一番です。会員
がいないと予算がないですし、高
齢化すると動ける先生が少なくな
ってしまうので困りますよね。

岡山委員 地域として在宅医療のニ
ーズには応えられている状況です
か。

沖野会長 対応している医療機関は
結構あるので、地域としてそれな
りに貢献できていると思います。

岡山委員 時代の流れで、そういった
ことがやはり必要になっています
よね。

では、町の特徴を教えてください。

沖野委員 高齢化の進んだ地方都
市ですね。人口としては微減だと思
います。転入者はあまりないです。

岡山委員 子供の人口はどうでしょ
う。

沖野会長 私も中学校の校医を5年
していますが、その間に大きな減
少は感じていませんが、長

い目で見ると徐々に減ってきていると思います。

岡山委員 地域の救急体制はどのように行っていますか。

沖野会長 平成19年に柳井医師会と熊毛郡医師会との合同で休日夜間応急診療所を立ち上げました。

柳井市にあり、そこに出向し輪番で診療をしています。平日夜間は午後7時から午後10時まで、休日は午前9時から午後5時までの間で一次救急を担っています。2次救急は周東総合病院にお願いしています。

岡山委員 小児の救急はどのように対応されていますか。

沖野会長 小児科と内科の先生たちで対応しています。今は周東総合病院に常勤の小児科の先生もいらっしゃいますので、困ったときには相談しやすいです。

岡山委員 他の医師会や行政との関わりはどうでしょう。

沖野会長 周囲の医師会としては主に柳井医師会と連携をとることが多いのではないのでしょうか。行政との関係としては特別なことはないですが、介護保険や予防接種などは問題なく行えていると思います。

岡山委員 新型コロナウイルス感染症の流行期に何か特別な対応はありましたか。

沖野会長 スムーズにいていたと思います。コロナのワクチンに関しては集団と個別で行っていましたが、どちらかに偏るというわけでもなくトラブルはなかったと思います。検査に関しては各医院で結構していただいていたので、検査ができなくて困るというようなこともありませんでした。

岡山委員 では、先生が医師会長になられて1

年が経過したと思うのですが、今の心境だとか、現時点でこういうことがもう少しできたらというようなことはありますでしょうか。

沖野会長 当初は年齢的にも若輩の部類でいろいろと力不足で皆さんに迷惑をかけないか心配しておりました。至らぬところはもちろん多々ありますが、普段なかなか経験できないようなことをさせていただいています。小さい医師会なので、大それた「これをやりたい」といったようなことはないのですが、地域医療に貢献したいという気持ちはあります。

岡山委員 2年という任期についてはどうですか。

沖野会長 2年は任期としては中途半端ですが、事務局がないため各医院で対応しなければいけないことを考えると、大変なことも多いので、そういったところから考えると2年が適切なのかなと思います。

岡山委員 もし、事務局ができたとしたら、医師会長としてももう少ししてみたいところはあるでしょうか。

沖野会長 事務局を作るとなるとお金もかかりますし、現状で何とかなっていることを考えると、今の形が妥当であろうと思います。

岡山委員 では、そういった事務局としての仕事は先生がお一人で対応されているのですか。

沖野会長 当院のスタッフが主に対応してくれています。スタッフの力がなかったら運営は考えられないですね。

岡山委員 従業員の方々は、医師会の仕事を担うことになった時にスムーズに受け入れてくれますか。

沖野会長 当然、自院以外の仕事が増えるわけなので、当たり前のように受け入れてはもらえな

いのかかもしれませんが、理解してもらい、協力的にやってくれています。

岡山委員 事務局が当たり前のようにある医師会としてはなかなか想像できないですね。

では、先生のご略歴を教えてくださいよろしいでしょうか。

沖野会長 私は、柳井で生まれまして、小中高と柳井で過ごしてきました。大学は川崎医科大学です。入局したのは九州大学の第2内科糖尿病研究室です。

岡山委員 糖尿病を診ていこうと思ったのはいつごろですか。

沖野会長 医者になってからですかね。スーパーローテーションでいろいろと研修させていただいて、糖尿病内科が性に合っていたので、その道に進みました。

岡山委員 どのようなところが性に合っていると思われたのですか。

沖野会長 私自身がどちらかというとのんびりした性格で、激しい科は少し抵抗がありまして、ゆっくりと患者さんを診ながら血糖値をコントロールしたりするのが性に合っていたみたいです。後は、治らない病と人生をともにする方たちと向き合いながら全人的な医療ができることも魅力に感じました。実際に糖尿病内科医としてやっても、やはり合っていたと思います。

岡山委員 やっていて大変なことはありますか。

沖野会長 やはり1型糖尿病の方は血糖変動も激しいので大変ですよ。あとは病識に乏しい方などは教育するのに苦労することがあります。

岡山委員 患者さんと向き合っていくにも根気強くになりますよね。そういったところも先生には合っている感じですかね。

沖野会長 苦痛には感じないですね。1回の診療でどうのこうのではなく、数か月、数年単位でその方その方に合わせてアドバイスをしていくという感じですかね。

岡山委員 大学は川崎医科大学をご卒業され、その後九州大学に入局されたとのことですが、九州には何年間ぐらい、いらっしゃったのですか。

沖野会長 九州には11年ぐらいいましたね。山口県には約20年ぶりに帰ってきたことになりま

岡山委員 県外に出られていた期間が長いですが、改めて山口の居心地は良いですか。

沖野会長 子供がまだ小さいので、自然が豊かなのは子育てにはいい環境だと思います。

岡山委員 私は関西地方にいた期間が長いのですが、岩国に帰ってきてから子供が2人できて現在、子育てで真最中なのですが、自然が近いのはやはりいいですね。

スポーツは何かされますか。

沖野会長 学生時代はあまりしてきませんでした。ただ、医者になってから少しゴルフを始めました。ただ、子供が小さいので最近はなかなかできていません。あと、ジムでの筋トレは今でもよく行っています。アンチエイジングも意識しています。

岡山委員 その他に何か趣味はありますか。

沖野会長 温泉が好きでよく家族と旅行に行きます。ゴールデンウィークも湯布院に行ってきました。その他にも有馬温泉や湯本温泉によく行きます。

あとは音楽鑑賞ですね。若いころはポップスもよく聴いていましたが、最近ではクラシックをよく聴いています。やっぱり普遍的なものがいいですね。

岡山委員 音楽を聴くための時間を作られたりしていますか。

沖野会長 睡眠にもいいので夜寝る前に聴くことが多いです。だいたい子供を寝かしつけた後に自分の時間が取れる感じですかね。

岡山委員 座右の銘をインタビューの時に聞かせていただいているのですが、先生の座右の銘があれば教えていただけますか。

沖野会長 「人間万事塞翁が馬」です。良い時も悪い時も平常心でいたいですね。なかなか難しいですが。

岡山委員 最後に、県医師会・広報委員に向けて先生が今思われていることがあれば、教えてください。

沖野会長 山口県は若手医師が少なく、医師会への入会も少ないのが課題と伺っています。

山口県は田舎で、都市部に比べ若者に人気がないのはとてもよくわかります。

勤務医は医師会入会のメリットがわかりにくく、私も勤務医時代は医師会を意識したことはほとんどありませんでした。

指導医からも専門医取得の重要性はよく言われましたが、医師会のこと等はほとんど聞いたことがありませんでした。

まず、勤務医でも上の世代の方が、医師会に入らないと次の世代はなかなかついて来ないのではないのでしょうか。

いろいろ工夫して医師会入会のインセンティブを明確にすることが必要でしょうか。

岡山委員 ありがとうございます。確かに私も勤務医時代に医師会のことを考えたことはほとんどと言っていいほどありませんでした。今は若い世代の医師に入ってもらいやすいように会費の減額制度など対応策が出てきていますが、持続して入会いただくためには、やはり医師会の存在意義はもちろんのこと、医師会員であることの意味も理解してもらう必要があるかもしれませんね。県医師会の広報委員としても求められている部分があるかもしれないので、とても参考になりました。

それでは、これでインタビューを終わらせていただこうと思います。本日はお忙しい中時間をとっていただきありがとうございました。

補足：本稿には掲載していませんが、私と同世代の子供の子育て中とのことで、当日は子育て談義でも少し盛り上がりました。

